

こんにちは。嘱託員の村上です。

現在、歴史資料室では館内展示「人物で紐解く近代スポーツ～あすなろ国体から40年～」を行っています。この展示は昭和52年（1977）の「あすなろ国体」（第32回国民体育大会）開催から40年という節目の年を迎えたことから企画したものです。

今回はこの展示の中から、野球に関する話題をお届けします。

皆さんは東京ドームの一角にある「鎮魂の碑」をご存じですか。この碑は戦没したプロ野球選手の霊を慰めるため、昭和56年に建立されたもので、73名の選手の名前が刻まれています。この碑に名前が刻まれている沢村栄治のことはご存じのかたが多いのではないのでしょうか。



鎮魂の碑

さて、この「鎮魂の碑」には青森市出身選手の名前も刻まれています。それは福士勇（1919-44）です。福士は昭和13年に青森県立商業学校（現県立青森商業高校）を卒業した後、社会人野球チーム・青森林友倶楽部野球部（青森営林局の野球部）に入り、投手として活躍しました。



鎮魂の碑に刻まれた福士勇の名前

昭和13年の「東奥日報」で青森林友倶楽部の試合を確認すると、福士は6月に行われた強豪・函館太洋（オーシャン）倶楽部との試合で勝利投手となり、7月に行われた都市対抗野球の東北予選でも3試合に登板して好投をみせるなど、新人ながらチームの勝利に貢献していたことがわかりました。

社会人野球の世界で活躍した福士は、昭和13年の秋、職業野球（プロ野球）のライオン軍（現在の横浜 DeNA ベイスターズ）に入団しました。福士は4年間で183試合に登板し、45勝（77敗）を挙げています。特に、昭和16年には57試合に登板して防御率1.88という成績を残し、東西対抗戦（現在のオールスターゲーム）の代表にも選ばれたそうです。

しかし、福士は昭和17年に応召し、昭和19年、フィリピン・ルソン島で戦死しました。

野球評論家の竹中半平は『背番号への愛着』（日本出版共同 1952年）の中で戦争の犠牲となった惜しい投手の一人として福士を取り上げ、「連投また連投、よくもすり減ってしまわなかったと思う位に働いた」「楽に使われればもっといい成績を挙げられた筈だ」と才能を評価しています。

館内展示では、福士が所属していた青森林友倶楽部野球部について8階のパネル展示でご紹介しています。図書館へお越しの際はぜひご覧ください。

※今回の内容は『プロ野球人名事典 2003』（日外アソシエーツ 2003年）、『プロ野球人国記 北海道・東北編』（ベースボール・マガジン社 2004年）などを参考にしました。